



河川敷や堤防なども「河川区域」として国や自治体が管理する。河川区域は本来、洪水被害を防ぐ治水のための公共空間。公園や運動場、防災ヘリコプターの発着所、送電線など公共施設しか造ることができなかった。

半は以降、国代官権が東京や大阪の河川敷の商業利用を観光集客策として、経済成長戦略の一環と位置付けた。04年に国が暫定的に一括して民間が借りる場所を指定し、カフェなどを常設できるようになった。11年

には川ことに管理者（国・自治体）が場所を指定できるようになり、各地で商業利用が本格化した。このほか運河については東京都が独自に05年から運河を含む地区を指定し、水上に商業施設を造

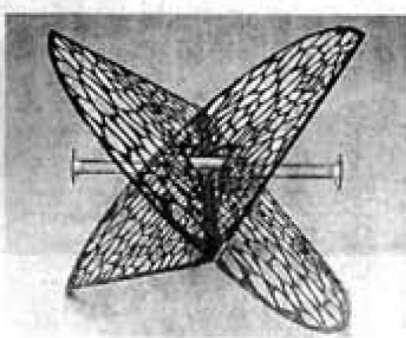
をを問やて示ま

1000人程度の市民の約1カ月経過した現在も「どまる。参加を想定していたが、参加者は約530人にと」このため、市長と市民「画。一般市民ら30人と市に厚い雲のせいで空「ラ女子」。だが、4年ほど「仰ぎ見る富士山の美しさに」の富士山の写真で得意先を

家電製品企画のアカリネ（千葉市）は機器自体が転がり、揺れ動く影を葉しむ照明機器「ローリング・シヤドウス」Ⅱ写真Ⅱを開発し、ネットで販売を始めた。価格は1台9万4500円。年間100台の販売を目標とする。加速センサーが動きを察知し、LED横が20秒、奥行き28秒で、トンボの羽のような模様が20秒点灯。この光が床や壁面に様々な影を映し出す板の加工は金属の精密加工

影樂しむ照明機器

アカリネ 転がり床・壁に投影



工技術を持つ日本ゲージ（茨城県茨城町）に委託し

た。アカリネは大手家電メーカー出身の森宮祐次社長が個人で設立、企画に特化して生産は外部に委託する「ひとり家電メーカー」。西陣織の銀糸や和紙を照明器具と組み合わせるなど、伝統工芸や国内メーカーの加工技術を取り入れた家電企画を手掛けている。

長や市の幹部10人が、J R千葉みなと駅周辺のコースを約1時間かけて歩き、実際に問題点を段階承、集客につなげる。の映像作品制作や施設の公開などに取り組む。歴史遺産の保存と史実の伝